

## 国際化学肥料ニュース（2025年8月）

### 肥料業界の2025年8月動態

- \* 8月4日、インドIPL社の尿素国際入札が開札された。22社が応札し、応札量450万トン、最低応札価格はCFR東海岸532ドル／トン、CFR西海岸530ドル／トン、前回7月7日に開札されたインドRCF社の尿素国際入札の最低応札価格より36～37ドルも上がった。
- \* 8月6日、中国の肥料関係部署が会議を開催し、インド向けの尿素輸出を一部解禁することを決定した模様。輸出量が20～30万トンまで制限し、FOB価格も小粒尿素470ドル／トン、大粒尿素490ドル／トンと高く設定されるという。インドと中国との関係悪化で、昨年末から中国はインド向けの尿素とDAPの輸出を全面禁止した。
- \* Argusのデータによれば、ベトナムは2025年上半年の化学肥料輸入量が急増し、1～7月前半の尿素輸入量が13.8%増の22.04万トン、硫安輸入量が16.1%増の65.91万トン、DAP輸入量が3%増の29.18万トン、塩化加里輸入量が16.1%増の65.91万トン、主要化学肥料輸入量が昨年より大幅に増えた。  
化学肥料輸入量が増加する原因是、ベトナム政府は2025年7月1日から全ての輸入肥料に5%の輸入増税を導入した。そのため、輸入業者は増税を負担しないように第2四半期までに外国化学肥料の輸入を加速させ、7月1日までに貨物の到着を求めていた。ただし、8月上旬に繁忙期の終息につれ、国内化学肥料の需要が減速し、農家が再び肥料を求めるのは10月以降になると予想されている。尿素、DAP、塩化加里の在庫が高水準にあること、国内需要の鈍化、そして中国からの10kg以下の小袋入り肥料の輸出停止により、2025年第3四半期から化学肥料の輸入が鈍化すると予想される。
- \* 2025年6月以降の塩化加里国際価格高騰を反映して、インドネシアのPupuk社が行った塩化加里の国際入札にCFR383ドル／トンで24.6万トン塩化加里を契約した。また、バングラデシュが行った25万トン塩化加里の国際入札に応札量43.1万トン、応札価格はCFR385～472ドル／トンである。
- \* 統計データによれば、中国2025年6月30日現在の硫安生産能力約2499万トン、1～6月の硫安生産量約1089万トン。その内訳は鉄鋼副産硫安生産能力が前年同期より2.11%増の598.33万トン、実生産量が3.44%増の249万トン、カプロラクタム副生硫安生産能力が4.12%増の1035万トン、実生産量が14.44%増の507万トン、ほかに樹

脂副産硫安と排煙脱硫副産硫安など計 333 万トン。なお、1~6 月の中国硫安輸出量が 35.1% 増の 883 万トン。

- \* 8 月第 1 週（4~10 日）の尿素国際相場はインド IPL の尿素国際入札の開札結果により急速に上がった。主要輸出国の FOB 価格が 15~37 ドル／トン、主要輸入国の CFR 価格も 15~40 ドル／トン上がった。ただし、買手がほとんど動かず、高値での契約がなかった。
- \* インド IPL 社は 8 月 4 日に開札された尿素の国際入札に 207.5 万トン尿素を契約した。その内訳は東海岸向けが CFR532 ドル／トンで 103.5 万トン、西海岸向けが CFR530 ドル／トンで 104 万トン。インドの尿素需要が非常に旺盛で、8 月末にも新たに尿素国際入札を行う噂がある。
- \* 8 月第 2 週（11~17 日）の尿素国際相場はインド IPL 社の尿素国際入札の購買数量確定により下落に転じた。インドに近い中東産大粒尿素の FOB 価格が若干下がり、505 ~515 ドル／トンと依然 500 ドルを超えたが、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 490 ~505 ドル／トンに下がった。輸入国では大粒尿素の CFR ブラジル価格が 475~495 ドル／トン。CFR アルゼンチン価格も 500~505 ドル／トンに下がった。高値に敬遠して、週間の契約がほとんどなく、ナイジェリアの Dangote 社は FOB490 ドル／トンで 1 船の大粒尿素を販売した。
- \* 8 月 16 日、インド NFL 社が新たに尿素国際入札を発表した。9 月 2 日締切りと開札、10 月 31 日まで船積みという条件である。予定購入数量は東海岸向け 100 万トン、西海岸向け 100 万トン。これは今年インド第 6 回目の尿素国際入札である。前回 8 月 4 日開札されたインド IPL 社の尿素国際入札に 12 日間しか空けなかった。
- \* 中国税関の速報によれば、2025 年 7 月の中国化学肥料輸出量が 85.7% 増の 570 万トン。その内訳は尿素が 712.5% 増の 57 万トン、硫安が 56.3% 増の 220.4 万トン、DAP が 92.2% 増の 98 万トン、MAP が 36.0% 増の 34 万トン。5 月末に尿素や DAP、MAP の輸出割当数量が決定されたことで、輸出が集中して、数量が急増した。  
2025 年 7 月の中国化学肥料輸入量が 20% 減の 68 万トン。その内訳は塩化加里が 16.4% 減の 53 万トン、NPK 化成肥料が 30% 増の 13 万トン。塩化加里輸入量が 3 ヶ月連続 100 万トンを切ったことで、中国国内塩化加里在庫量が 175 万トン以下となった。

- \* 8月19日、バングラデシュ政府は国営バングラデシュ農業発展公社（BADC）を通じて、ロシア、モロッコとカナダから計21.5万トン化学肥料を輸入することを決めた。その内訳はロシアからCFR361ドル／トンで3.5万トン塩化加里、モロッコからCFR82.67ドル／トンで4万トンDAP、CFR584.67ドル／トンで6万トン重過石、カナダからCFR361ドル／トンで8万トン塩化加里を輸入する。
- \* Argusのデータによれば、インドは4～7月に化学肥料輸入量が5%増のkharif栽培シーズンのために、4～7月に化学肥料輸入量が5%増の485万トンに達した。その内訳はDAP輸入量が35%増の198万トン、尿素輸入量が22%増の124万トン、NPK化成肥料輸入量が22%増の126万トン、塩化加里輸入量が67%減の35万トン。化学肥料の価格高騰により、2025年財政年度（4月～翌3月）の化学肥料補助金が当初予算の16.8億ルピー（約1900万ドル）から19.1億ルピー（約2200万ドル）に修正し、すでに16.7億ルピーを支出した。残る期間内に化学肥料補助金がさらに増える予測である。
- \* ブラジル発展・工業と国際貿易省（MDIC）の統計データによれば、ブラジル2025年7月の化学肥料輸入量が7.1%増の479万トン、7月化学肥料輸入量の新記録となった。今年1～7月にすでにロシアから688万トン、中国から514万トン化学肥料を輸入した。なお、2025年ブラジル化学肥料輸入量が8.8%増の2420万トンに達する見込みである。
- \* カナダにあるBrazil Potash社はブラジル最大の肥料商社Keytrade Fertilizantes Brasil社との間に年間最大90万トン、計10年間の加里肥料基本販売契約を締結した。Brazil Potash社はブラジル子会社Potássio do Brasil Ltdaw社を通じて、ブラジルのアマゾナス州にAutazes加里鉱山を開発して、25億ドルを投資して、年間240万トン塩化加里を生産する計画である。2026年から一部生産開始の予定である。
- \* 8月13日、アメリカのMosaic社はブラジルSergipe州Rosário do CateteにあるTaquari-Vassouras加里鉱山をブラジルのVL Mineração社に2700万ドル現金および最大2200万ドルの債務負担で売却すると発表した。Taquari-Vassouras加里鉱山はブラジル唯一の加里鉱山で、年間生産能力62.5万トン塩化加里だが、地下水など地質の問題があり、2024年の塩化加里生産量が39.8万トンである。事業継続のために2,500万米ドルを超える追加投資を必要としているため、売却を決定したという。

- \* インドの肥料輸入業者 Hindustan Urvarak and Rasayan 社は 2 回の入札を通じて 10 万トンの DAP を購入した。インドの肥料輸入業者は中国政府のインドへの尿素と DAP 輸出禁止に対応するため、ほかのソースから輸入を増やしている。
- \* 8 月第 3 週（18～24 日）の尿素国際相場は前週 16 日インド NFL 社の新しい尿素国際入札の発表にも関わらず、下落し続いている。その理由はバイヤーたちが割高の尿素を敬遠して、ほとんど動かなかった。中東産大粒尿素の FOB 価格が 495～505 ドル／トン、エジプト産大粒尿素の FOB 価格も 490～495 ドル／トンに下がった。CFR ブラジル価格が 475～495 ドル／トンで安定している。インドネシア Kaltim 社が行った大粒尿素の国際販売入札に最高応札価格が予想の FOB475 ドル／トンより下回ったため、入札自体を取り消した。
- \* 中国政府は 8 月 20 日頃今年 3 回目の尿素輸出割当数量を配分した。その数量は 70～80 万トン、各メーカーと輸出商社への具体的な割当数量を公開せず、10 月 15 日までに輸出通関という条件である。
- \* インド肥料協会（FAI）の最新データによれば、インドの NP および NPK 肥料の在庫量が 7 月に約 681,000 トン減少した。kharif 栽培シーズンの好天候で、農作物栽培面積の増加と農家の肥料施用量の増加により、尿素や DAP に限らず、化成肥料の販売量も急増した。インドは 7 月に約 108 万トンの NPK および NP 化成肥料を生産し、前年比で 9% 増加した一方、輸入量は前年比で約 20% 減の 31 万 5000 トン、販売量が前年比で 18% 増の 207 万トンであった。2025～2026 肥料年度の最初 4 か月（4～7 月）の化成肥料販売量 500 万トンに達した。
- \* 8 月第 4 週（25～31 日）の尿素国際相場は下落し続いている。中国政府はインドへ尿素輸出を禁止する政策を緩和して、インド NFL 社の新しい尿素国際入札に中国尿素の応札を認めることにより国際尿素価格が抑圧される雰囲気がある。尿素の国際取引がほとんどなく、値下げへの圧力が強くなった。その影響を一番受ける中東産大粒尿素の FOB 価格が 480～490 ドル／トン、エジプト産大粒尿素も FOB 価格が 475～485 ドル／トンに 4 週間ぶりに 500 ドルを切った。インドネシア Kaltim 社が行った大粒尿素の販売入札には最高応札価格が FOB455 ドル／トンで、Kaltim 社の期待値 498 ドル／トンに遠く及ばなかった。  
主な輸入国の CFR 価格も下落した。大粒尿素の CFR ブラジル価格が 455～475 ドル／トン、CFR アルゼンチン価格が 480～490 ドル／トンに下がった。

\* 中国政府は8月末に今年2回目のDAP輸出割当数量を主要りん安メーカーと輸出商社に通知した。各社への割当数量を公開せず、9~10月に輸出通関という条件である。

\* サウジアラビアのMa'aden社が所有のアンモニアプラントの一つが故障で緊急停止し、再稼働まで60日かかり、アンモニア生産量が約17万トン減少することが判明された。Ma'aden社はその内の約10万トンアンモニアを外部からスポットで調達するという。

アンモニアの国際価格がこのリーグにより急速上がった。Mosaic社とYara社の間に9月CFRアメリカのアンモニア価格が8月の487ドル／トンから53ドル上げて540ドル／トンで決済することを決定した。また、アルジェリアとエジプトのアンモニア生産能力の逼迫により、価格への上昇圧力が生じて、アルジェリアのEU向けアンモニア価格がFOB517ドル／トンと525ドル／トンになり、前月より約20ドル上がった。

ただし、インドやアジア太平洋地域のバイヤーは、この影響に即時の反応はほとんどなく、東南アジアの主要輸出拠点が十分な供給があることを期待しているようである。

\* バングラデシュ農業省の許可を得て、バングラデシュの民間部門が8月に行ったDAPの国際入札に於いて、サウジアラビア産とモロッコ産DAP計50万トンが落札した。中国産DAPも応札したが、応札価格のほか、中国政府による輸出規制および納期の問題で落札できなかった。

### 大手各社の営業業績

\* イスラエルのICL社は2025年第2四半期の業績を発表した。売上高が4.6%増の18億3200万ドル、営業利益が14.2%減の1億8100万ドル、純利益が12.7%減の1億1000万ドル、EBITDAが6.9%減の3億5100万ドル。主力の加里事業は生産設備のメンテナンスおよび地域紛争の影響で販売量が15.8%減の97.1万トン。りん酸塩事業は販売量が増加したが、価格下落で売上が減少した。なお、2025年の加里販売量を430~450万トンと見込んでいる。

\* 中東UAEの窒素肥料会社Fertiglobe社は2025年上半期の業績を発表した。アンモニア販売量が10%増の67.7万トン、尿素販売量が4%減の211万トン、総売上高が20.3%増の10億4760万ドル、EBITDAが36.5%増の4億3740万ドル、純利益が22.0%減の1億5360万ドル。

\* アメリカの窒素肥料メーカーCF Industries社は2025年上半期の業績を発表した。アンモニア生産量が8.9%増の517.4万トン、尿素生産量が3.5%増の229.2万トン、

UAN（尿素硝安液肥）生産量が3.4%増の358.1万トン、硝安生産量が1.6%減の66.3万トン。売上高が16.8%増の35億5300万ドル、EBITDAが16.0%増の14億500万ドル、純利益が6億1400万ドル。

- \* アメリカのMosaic社は2025年上半期の業績を発表した。1~6月の塩化加里販売量440万トン、りん酸肥料販売量300万トン、化成肥料販売量400万トン、加里肥料の価格上昇により、総売上高が6.5%増の56億ドル、EBITDAが11億1000万ドル、純利益が357.7%増の6億4900万ドル。
- \* カナダのNutrien社は2025年上半期の業績を発表した。1~6月の塩化加里販売量が5.9%増の739.1万トン、アンモニウム販売量が1.2%増の123万トン、尿素販売量が7.1%増の175.6万トン、りん酸肥料とりん酸塩販売量が13.4%減の104.3万トン。総売上高が前期並み155億3800万ドル、EBITDAが1.5%増の33億3800万ドル、純利益が224.1%増の12億4800万ドル。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 中国の宜化グループは新規りん安と化成肥料工場の一期工事の竣工と稼働開始を発表した。当該工場は中国政府の揚子江環境保護政策に応じて、揚子江の川沿いにある旧工場を宜昌市姚家港化工园に移転させたものである。一期工事は年間40万トンりん安、20万トン化成肥料の生産能力がある。全体の工事が完成すれば、年間220万トンりん鉱石の選鉱、120万トン硫黄を原料とする硫酸、40万トン湿式りん酸、30万トンDAPと30万トンMAP、30万トン化成肥料の生産能力を有する総合りん酸肥料工場となる。
- \* ナイジェリアのDangote社はエチオピア政府との間にエチオピアのGode市に年間生産能力300万トンの尿素工場を建設する協定に署名した。協定には尿素工場の建設費用約25億ドルの費用で、着工から40カ月以内に完成するとされているが、建設開始日については明らかにしない。Dangote社は工場の株式の60%、エチオピア政府は国営Ethiopian Investment Holdingsを通じて40%を保有する。天然ガス原料は近くのCalubガス田とHilalaガス田から調達する予定である。  
また、当該尿素工場は将来に硝安、硝酸アンモニウムカルシウム(CAN)、硫安を含むアンモニアベースの肥料生産まで拡大することも協定に含まれている。

### その他

- \* アメリカのトランプ大統領が新たな関税率を発表し、8月1日からトリニダード・トバゴ、ナイジェリア、イスラエル、ヨルダンなど一部の肥料原料輸出国に対する関税率

が以前の 10%から 15%以上に引き上げられた。ただし、国により関税率が異なる。例えば尿素の主要生産国であるアルジェリアは現在 30%の関税に直面しているが、サウジアラビアやカタールといったアラブ湾岸諸国には、引き続き 10%の関税が課される。

しかし、トランプ政権の新関税は不明瞭な点が多い、関税率の適用除外製品に対する調整は説明されず、加里肥料（塩化加里、硫酸加里、硝酸加里）や NPK 化成肥料などは無関税のまとなる可能性が高いし、ロシアのウクライナ対応により現在の関税免除の地位も維持される可能性がある。新関税の影響は主に窒素とリン酸塩市場に限定されるという。

- \* UAE の Fertiglobe 社は年間生産能力 100 万トンの Rabdan ブルーアンモニアプロジェクトの見直しを決定した。また、同じ年間生産能力 100 万トンの Baytown クリーンアンモニアプロジェクトの最終投資決定（FID）も延期される。その理由は建設コストと稼働コストの増加により「政府のさらなる強力な支援政策が必要」となっている。  
ただし、すでに建設中の Harvest ブルーアンモニア工場が順調に進んで、計画通り 2027 年完成・稼働するとも発表した。
- \* カナダの Fox River Resources 社はカナダオンタリオ州政府から最大 21 万 8,500 カナダドルの資金を得たことを発表した。当該資金は Fox River Resources 社の Martison プロジェクトに精製リン酸 (PPA) を生産し、LFP バッテリーやクリーンテクノロジーに必要な原料を確保するための開発を援助するものである。Martison りん鉱山は大規模な火成岩のりん鉱床に構成され、高品位のりん鉱石の採掘により、リン酸肥料と LFP バッテリーサプライチェーンへの PPA 供給が可能である。
- \* 8 月 18 日、中国の塩湖社はスペイン北部の Muga 加里プロジェクトおよびカナダ Saskatchewan 州の Southeby 加里プロジェクトを 3 億ドルで買収する意向を撤廃することを発表した。その理由はこの 2 件の加里開発プロジェクトは技術や法律面でいろいろな問題があり、開発には時期尚早と判断したという。今年 5 月 12 日塩湖社はオーストラリアの Highfield Resources 社、中国の兗矿エネルギー社、香港の EMR Capital 社との間に Muga 加里プロジェクトおよび Southeby 加里プロジェクトに関する回収覚書を締結したことを発表したばかりである。
- \* ドイツの BASF とノルウェーの Yara 社が共同でアメリカのテキサス州 Freeport に炭素回収・貯留を伴うブルーアンモニア生産施設の開発プロジェクトを中止することを決定したことを発表した。2023 年、両社はアンモニアの生産プロセスで発生する CO2 の

約 95 パーセントを回収し、地中貯留することを目指して、ブルーアンモニアの生産能力が年間 120~140 万トンとなるプロジェクトを立ち上げた。

\* 中国石油化工社とサウジアラビアの ACWA Power 社はサウジアラビアの Yanbu' al Bahr 市に大規模クリーン水素とクリーンアンモニアプロジェクトの建設を契約した。このクリーン水素とクリーンアンモニアプロジェクトは風力発電を利用して、電気分解で水素を製造し、アンモニアを合成するもので、年間 40 万トン水素と 280 万トンアンモニアを生産し、2030 年完成稼働する計画である。

\* オーストラリアのリン酸塩メーカー PRL グループは Centrex 社とその子会社 Agriflex. 社から買収した Ardmore りん鉱山の操業が再開されたと発表した。Ardmore りん鉱山の生産能力は年間 63.5 万トンりん鉱石、PRL グループは 2025 年 4 月に買収の可能性に関する 45 日間のデューデリジェンス期間を開始し、8 月に正式に買収した。